

# 平成 28 年度 訪問型家庭教育支援員養成講座（2 日目）

日 時：平成 28 年 9 月 1 日（木曜日）

場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター  
（ドーンセンター）

平成 28 年 9 月 1 日（木曜日）、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて、平成 28 年度 訪問型家庭教育支援員養成講座の 2 日目を実施しました。本講座では、2 日目となる 2 講座を行いました。

## ① 津村 薫 氏（女性ライフサイクル研究所 副所長）

「寄り添い関わるためにー共感、傾聴し、受容的なコミュニケーションをとるための心構えと実践スキルー」



支援員として相手に寄り添い関わるために、訪問支援・コミュニケーションにおいて心がけることやその必要性、重要性、注意点等を事例を交えながら具体的にお話しいただきました。

「あなたが大切です」という思いを伝えること、相手とのコミュニケーションにおいて非言語コミュニケーションに注目すること、そのポイントについてのお話があり、バイスティックの七原則に基づいた支援の着眼点、注意点についてもお話しいただきました。

また、講演中は簡単なエクササイズをとりいれて、心も体も頭も使ってリラックスした状態で講演を聞くことができました。

事前に先生へいただいていた質問や、その他支援の際に困ったときの対応や疑問等について具体的にお答えいただきました。

最後には、支援のためには支援員のセルフケアとメンテナンスの大切だということ、リラックス方法やストレス対処の方法についてもお伝えいただきました。

## ② 新崎 国広 氏（大阪教育大学 教育学部 准教授）

「効果的な訪問支援に向けたネットワークづくり（教育コミュニティの形成と意義）」



学校・家庭・地域の協働や、つなぐ・つながる力についてお話いただきました。福祉を「ふだんの・くらしの・しあわせ」と考え、一緒に考えることをキーワードとして今社会で起きていること、これからの地域との協働のあり方を考えながら、支援員としての連携方法等についてお話いただきました。

福祉教育における、あたたかくやさしい「ナナメの関係づくり」（例えば、親や子どもと訪問型支援員や地域住民等との関係づくり）の大切さ、支援員に担ってほしい役割として、地域との協働における「共助（みんなで協力して解決する）」について、相手の立場に立つことや、ひとりにしないこと、などをお伝えいただきました。

グループワークや簡単なゲームでは、それを通して、人とつながることの良さや、人との交流で自然と笑顔になることや、失敗は必ずあるので恐れる必要がないこと、手をつなぎ協力することの大切さについて自ら気づく機会となりました。

前半の講義と関連させながら、1 日を通して、具体的な支援の場面をイメージしながら、相手の立場を考えたり、自分の考えを見つめ直したりして、支援する際のポイントや心がまえを学ぶことができました。